

# 優良農家の紹介

## 親子で築く新しい経営

加西市では1960年代にバラ栽培が導入され、周年栽培・夏切り栽培が行われている。また、1970年に大阪で開催された万博を契機に鉢花・花壇苗生産が拡大されてきた。1993年5月にはJ A兵庫経済連・兵庫の花集配センターが加西市内に設置され、京阪神地域を中心に集出荷の基地となっている。この加西市で親子でそれぞれバラ栽培、花壇苗栽培に励んでいる高見日出男氏、昌伸氏を紹介する。

### 1 経営概要

自家労働力：本人56歳・妻53歳・長男27歳

臨時雇用：1名

経営規模：パイプハウス 3,000㎡

軽量鉄骨 3,000㎡

露地圃場 3,000㎡

水稲 3.5ha

年間出荷量：バラ 30万本

花壇苗 15万ポット

父日出男氏は1969年に野菜苗栽培からバラ栽培に経営転換した。当初はハウス660㎡であったが、1988年にはビニルハウス6,000㎡となる。1990年にはロックウール耕も取り入れ高品質栽培を行っている。

後継者の昌伸氏は1995年農林水産省農業者大学校卒業後、どのような経営形態の農家になるのか、ヒントを探そうと、兵庫県の園芸農家を巡回視察した。最終的に花壇苗を選んだのは花壇苗の将来性と消費者ニーズに柔軟な対応ができること。また、父親の事業を継ぐと自分の思い通りにできないことで、あえて違う道を選んだ。バラ栽培から花壇苗栽培へ徐々に転換し、現在、バラ栽培3,000㎡、花壇苗栽培3,000㎡の規模で生産・出荷を行っている。

### 2 消費者ニーズに適合したバラ経営

ロックウール耕をいち早く取入れる等常に新しい技術導入に積極的で、最近では、養液土耕にも取り組んでいる。近年、消費者ニーズの高いミニバラ系統を中心に

品種の更新を図っている。

### 3 着実に基盤を固める花壇苗生産

(1)施設栽培では栄養系繁殖（挿し芽繁殖）の品目を中心に生産（デモルフォセカ、ユウゼンギク等）、秋には露地でハボタンのポット栽培を行うローテーションを組んでいる。

(2)ポット土詰め機などを利用した省力化や、培養土の軽量化、棚栽培の導入等軽労働化にも取り組んでいる。

(3)花壇苗の出荷は経済連花集配センターを利用し、出荷労働力の軽減を図っている。

(4)緊急リース事業を利用した1,200㎡の軽量鉄骨のハウスを平成11年に建設。軒高が高く天窓換気が出来るため、高品質の鉢花・花壇苗生産が可能となった。また、通路に台車を設置し、出荷労働力の軽減を図っている。

### 4 親子で切磋琢磨

親子でそれぞれの道に向かって技術を磨いている。特に、後継者の昌伸氏は、父親から花壇苗の生産技術が習得出来ず、試行錯誤の連続であった。しかし、労働力の不足をパート雇用で補ったり、自分自身で栽培ローテーションを立てることにより、経営感覚を着実に身に付けている。また、花壇苗栽培を取り入れた結果、より基盤の強固な経営になりつつある。近年では、水稲の栽培も増加し、地域の中核農家としてより発展が期待される親子二人三脚の経営である。

福嶋啓一郎（加西普及センター）



忙しい時は親子で作業を助け合う

ひょうごの農業技術 No.112

平成12年11月1日（隔月刊）

1部250円（申込先・県立中央農業技術センター）

兵庫県立中央農業技術センター（0790）47-1117

兵庫県立北部農業技術センター（0796）74-1230

兵庫県立淡路農業技術センター（0799）42-4880